

コミュニティ・スクールの可能性について

～これからの学校づくりをどうするか、どんな学校にしたいのか～

2022.08.02 米子市コミュニティ・スクール推進フォーラム



文部科学省CSマイスター（春日市財政課） 西 祐樹

平成23年より福岡春日市教育委員会事務局に7年間在籍し、**コミュニティ・スクール及び地域学校協働活動の推進**をメインとしつつ、教育委員会議や近隣大学との連携、学校事務職員の経営参画等についても関わる中で、教育行政及び学校運営の在り方、対話の場づくりについて考えるようになる。

平成30年より文部科学省初等中等教育局参事官（学校運営支援担当）付に専門職として着任し、コミュニティ・スクールの全国普及に携わることに。同年10月の組織再編後は総合教育政策局地域学習推進課に籍を移し、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動を担当、令和2年には課内異動により、公民館、社会教育士も担当する。

令和3年4月より春日市に戻り（財政課）、文部科学省CSマイスターとして新たな活動をスタート。

Facebook
「Yuki.Nishi」



410pixies.brokenface@gmail.com

コミュニティ・スクール導入・推進の壁（学校、地域の声）

CSでなくても、
今の学校と地
域の連携で十
分では・・・

学校の働き方
改革も急務、
何より忙しい。
CSは難しい・・・

地域から意見を
言われてかえっ
て大変になるの
では・・・

地域住民が学
校に意見を述べ
るなんて・・・

学校教育は学
校だけが行うも
のでは・・・

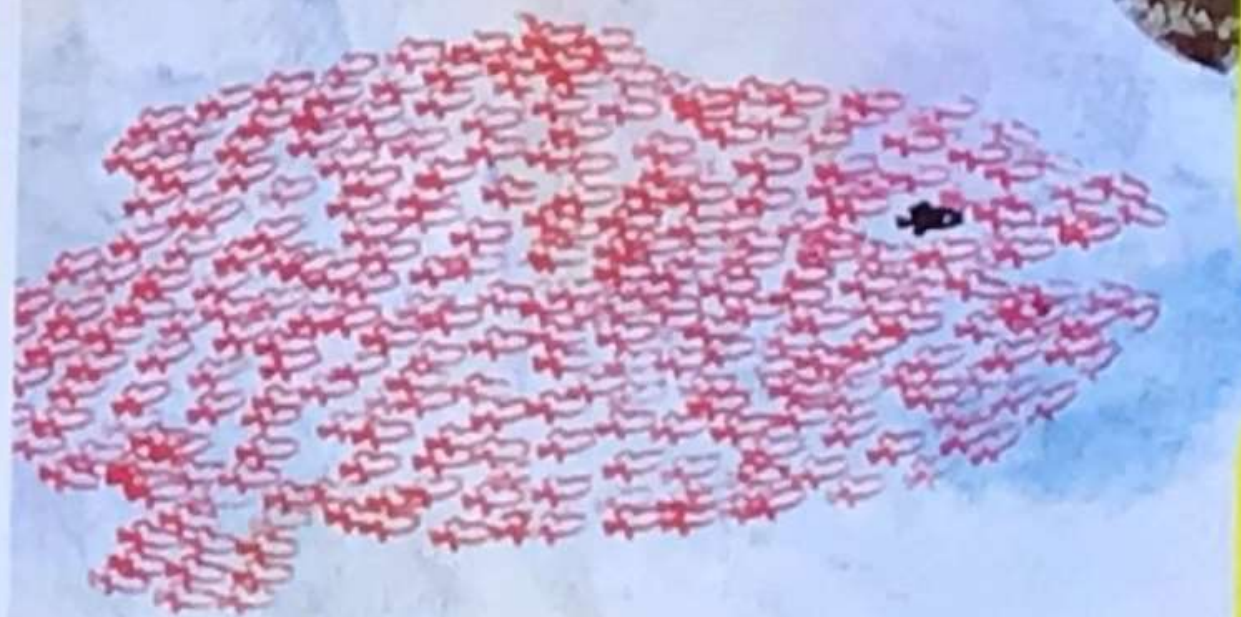
忙しいので学校
に関わる時間も
ないし・・・

コミュニティ・スクールとは・・・

学校と地域が知恵を出し合い、力を結集して、「自分たちの学校」をよりよいものにしていくための仕組み。



このことを通じて、子供たちの未来、地域の未来を創っていく。



#まとまると強い

本当に強いチームワークを支えるものは、何か。

魚群スイミーは、連携する強さを教えてくれます。
一人旅を続けるスイミーが出会った小さな魚たち。
巨大なマグロという共通の敵を持った彼らは、
1匹だけ色の違うスイミーが目となり、
それぞれが役割を理解し連携することで、
マグロも恐れる大きな魚となって自由に泳ぎはじめます。

ビジネスの世界でも、
皆が同じ目的をもちながら情報を共有し、
緻密に連携することで想像を超える力が生まれます。

ビジネスのバラバラをひとつに、
個の力だけでは到達できない領域へ、まとめる力、
それが「キントーン」です。

kintone

キントーン

サイボウズのクラウドサービス



Copyright © 2014 by Kintone, Inc. Kintone is a registered trademark of Kintone, Inc.

**これからの学校のこと、子供のこと、
地域のことを考える**

地域と学校の連携・協働の必要性

地域における教育力の低下

- 少子化・核家族化・都市化・情報化等の経済社会の変化
 - 地域における地縁的なつながりの希薄化
 - 地域の人間関係の希薄化
- 等

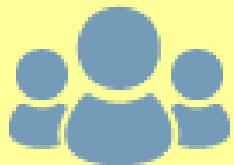
学校を取り巻く問題の複雑化・困難化

- 保護者の学校に対するニーズの多様化
 - 生徒・児童指導に関わる課題の複雑化
 - 教員の働き方改革の必要
- 等

新学習指導要領の理念「社会に開かれた教育課程」

- ① 教育課程を介して**目標を学校と社会が共有**
- ② 子供たちの育成すべき資質・能力を明確化
- ③ **地域の人的・物的資源の活用**、社会と共有・連携しながら、開かれた学校教育を展開

地域 学校



- ◆ コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）
- ◆ 地域学校協働活動、地域学校協働本部



地域と学校の連携・協働体制を一体的に推進

OECD生徒の学習到達度調査(PISA)2018によると、日本の子供のICT活用状況は、OECD加盟国間の比較において、学校の授業での利用時間が短く、学校外では多様な用途で利用しているものの、チャット、ゲームの利用に偏る傾向がある。また、スマートフォンは、10年前にはほとんど子供たちは持っていなかったが、現在のスマホ保有率は、高校生は99.1%、中学生が84.3%と非常に高く、「フィルターバブル現象」の中で日常的に情報に触れていることに気づかない状況や、大人が想像する以上に子供にかかる「同調圧力」の影響は非常に大きい。子供たちの「デジタル・シチズンシップ」の育成が喫緊の課題。

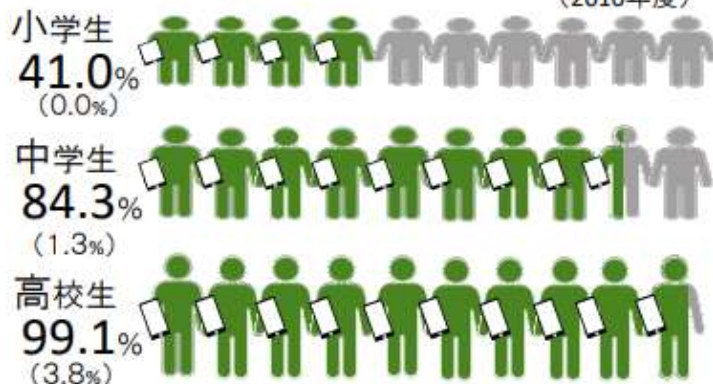
学校外での平日にデジタル機器の利用状況(高校1年生)※1 2018年

「毎日」「ほぼ毎日」の合計

- コンピューターで宿題をする ● ネット上でチャットする
- 1人用ゲームで遊ぶ ● インターネットでニュースを読む



子供専用のスマホ保有率 ※2 2020年度 (2010年度)



フィルターバブル現象

アルゴリズムにより、自分の考えや嗜好に合う情報がフィルターを通り抜けて提示されるようになり、多様性を欠いた自分の好む情報「だけ」に囲まれ、その他の情報から隔離されやすくなる状況。



学校外でも同調圧力

日本の子供のチャット利用率は非常に高く、昼夜問わず、グループでのやりとりやメッセージの既読確認ができる環境は、学校外にいても、同調圧力・ヒエラルキーが生じやすい状況。



【出典】※1 OECD 生徒の学習到達度調査 PISA2018をもとに内閣府で作成

※2 内閣府 令和2年度 青少年のインターネット利用環境実態調査結果をもとに内閣府で作成。平成26年度より調査方法等を変更したため、平成25年度以前の調査結果を直接比較ができないことに留意。「小学生」の調査対象は、満10歳以上。

子供の特性：障害の特性、ギフテッド、不登校・不登校傾向



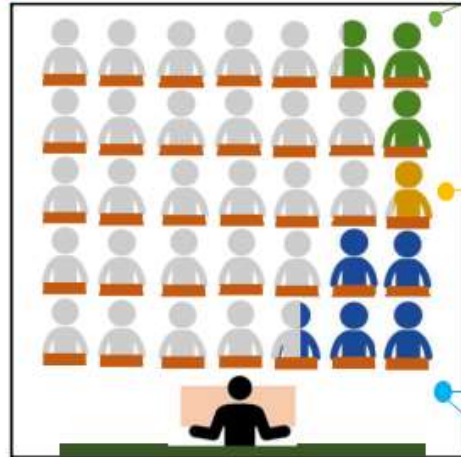
発達障害やギフテッド、不登校・不登校傾向の子供など、**学級には様々な特性を持つ子供が存在。その中には、学校に馴染めない子供たちも一定数存在。**(これらが複合している場合も存在)

発達障害の可能性のある子供
(学習面or行動面で著しい困難を示す)



【特別支援教育を受ける義務教育段階の児童生徒の割合】
 ・特別支援学校:0.8%
 ・特別支援学級(小・中学校等):3.1%
 ・通級による指導(小・中学校等):1.4%

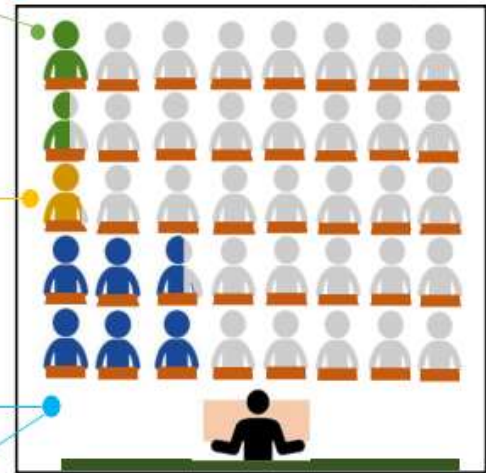
小学校 35人学級 



ギフテッドの可能性のある子供
(日本には定義がないため、IQ130以上を仮定)



中学校 40人学級 



不登校・不登校傾向の子供



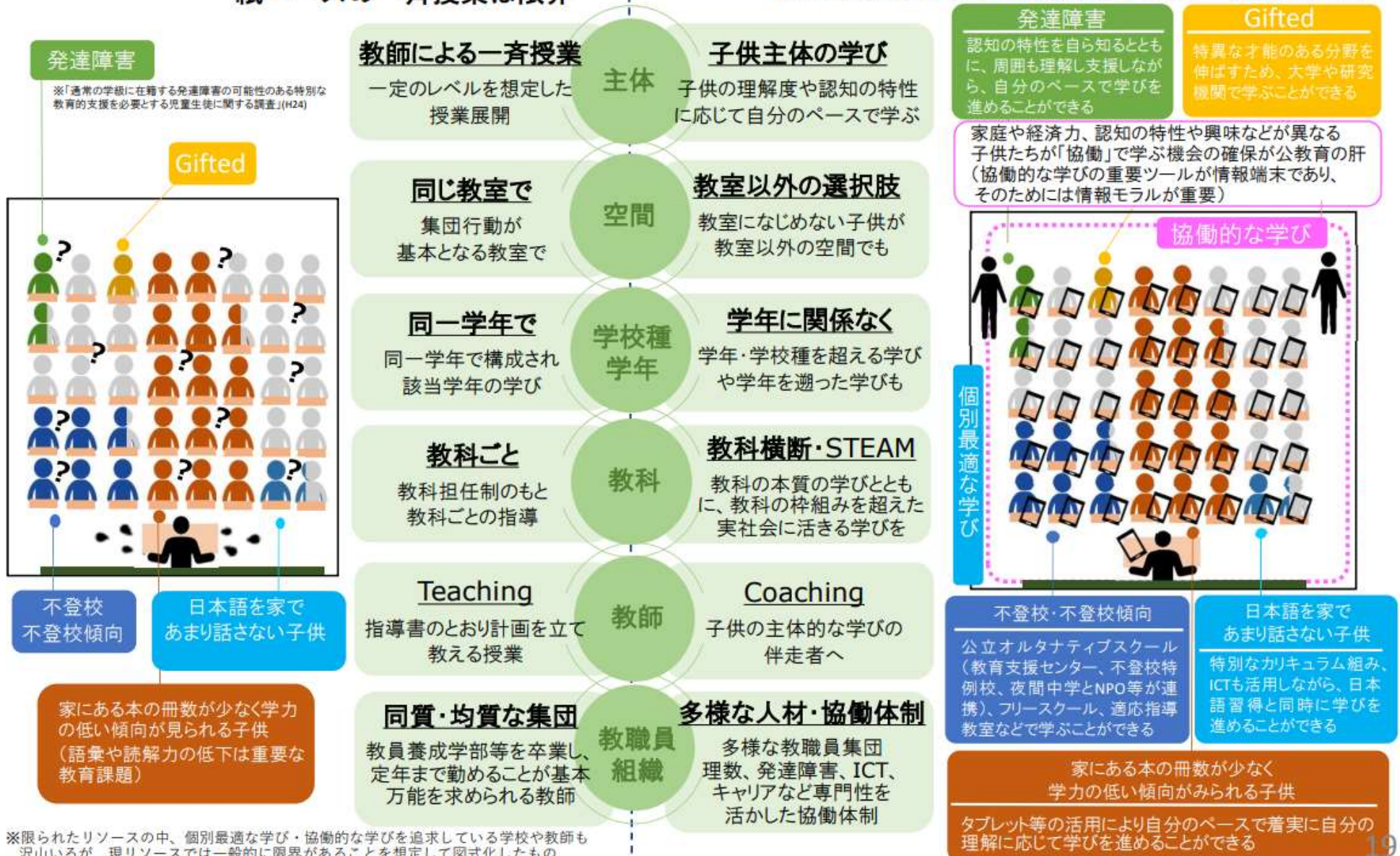
不登校の子供たちが学びたいと思える場所は「自分の好きなこと、追求したいこと、知りたいことを突き詰めることができる環境」がトップ。次いで「自分の学習のペースにあった手助けがある」環境などと回答。

※1 不登校 年間に連続又は断続して30日以上欠席
 ※2 不登校傾向 年間欠席数30日未満、部分登校、保健室登校、部分登校など含む

子供にとっての「時間」の確保・再配分の目指す姿(たたき台)～中学校40人学級の教室にあてはめた場合～

子供たちが多様化する中で
紙ベースの一斉授業は限界

多様な子供たちに対してICTも活用し
個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実



※限られたリソースの中、個別最適な学び・協働的な学びを追求している学校や教師も沢山いるが、現リソースでは一般的に限界があることを想定して図式化したもの

今、これまで当たり前だったことが、当たり前ではなくなっている。そして、これから20年、30年先を生きる子供たちは、誰も見たことも想像したこともない社会を生きていくことになる。



学校と実社会をつなぎ、これまでの「学校の当たり前」を変えていきながら、**子供たち一人ひとりにとっての最適な学びとは何か、何が良いのかを考え、「自ら考えていく力」をどう育んでいくのか**について議論がなされている。

「社会に開かれた教育課程」の意味

学習指導要領(抄)(小学校・中学校平成29年3月告示 高等学校平成30年3月告示)

前文

(前略)

コミュニティ・スクールが一つの手段たりえる

教育課程を通して、これからの時代に求められる教育を実現していくためには、よりよい学校教育を通してよりよい社会を創るという理念を学校と社会とが共有し、それぞれの学校において、必要な学習内容をどのように学び、どのような資質・能力を身に付けられるようにするのかを教育課程において明確にしながら、社会との連携及び協働によりその実現を図っていくという、**社会に開かれた教育課程**の実現が

地域学校協働活動が一つの手段たりえる

(中略)

児童(生徒)が学ぶことの意義を実感できる環境を整え、一人一人の資質・能力を伸ばせるようにしていくことは、教職員をはじめとする学校関係者はもとより、家庭や地域の人々も含め、様々な立場から児童(生徒)や学校に関わる**全ての大人**に期待される役割である。

どんな高校生が大学、社会で成長するのか？

「学校と社会をつなぐ調査」
(通称「10年トラジション調査」)結果より

1. 教室外学習
2. 対人関係・課外活動
3. キャリア意識

キャリア意識は就職とつなげる程度でしか理解していない教員が多く、それが学習に及ぼす影響力は過小評価されている！

出所)「どんな高校生が大学・社会で成長するのか」(溝上慎一責任編集)2015年学事出版

株式会社リアセックキャリア総合研究所(同所長 角方 正幸 氏)資料より

キャリア意識

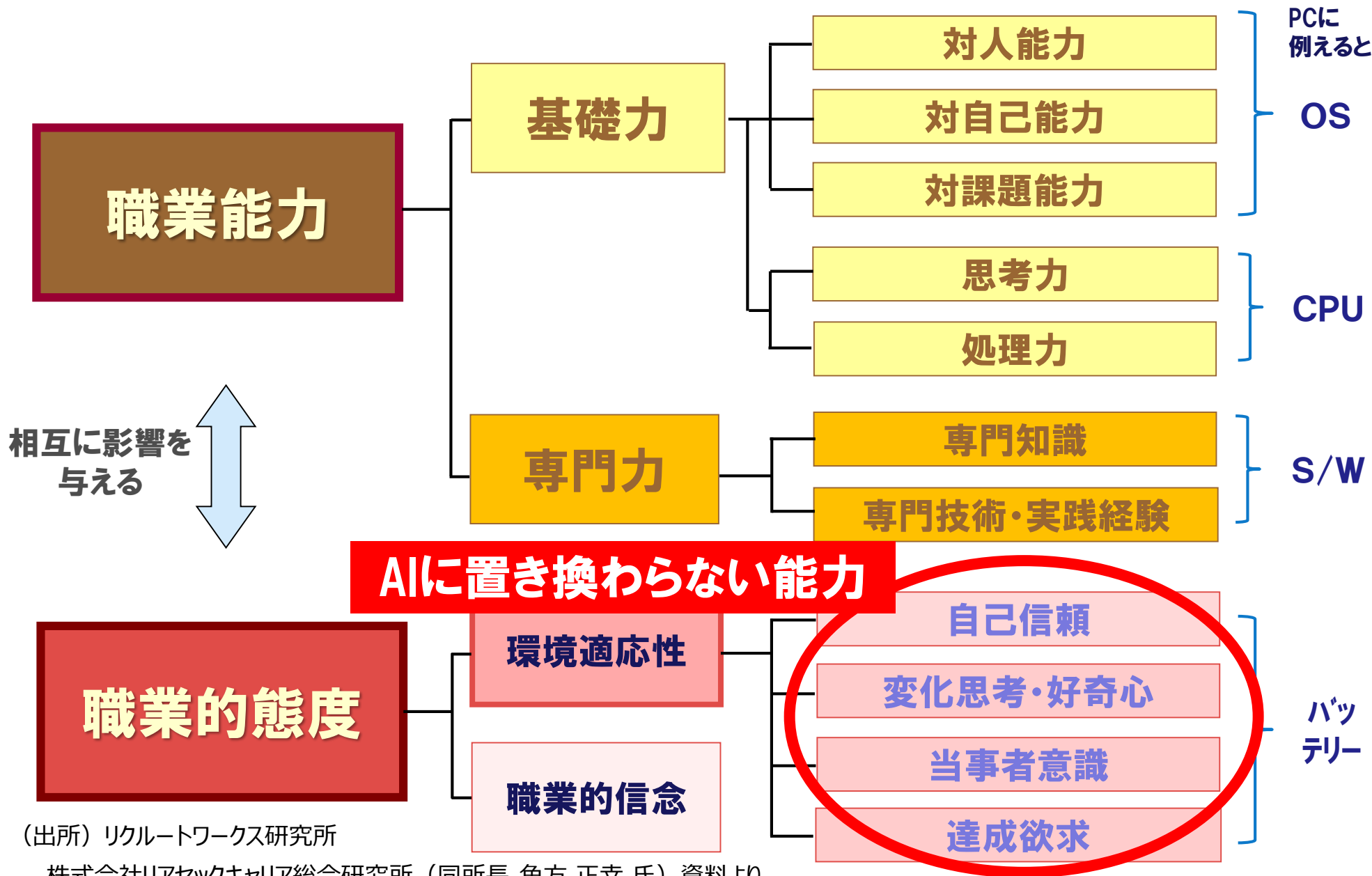
先の見えにくい時代において、成長する人のキャリア意識は高いというのが、各種調査から明らかに！

→ 高校時代に大事なことは、
「あの人のようになりたい」、「こんな仕事がしたい」、
「何々さんのような人生にあこがれる」

・・・自己の将来に夢や希望を持ち、
その実現を目指して意欲的に学習に取り組む・・・

教師の役割は、青年と社会人を引き合わせること

仕事に必要な「能力」の概念



(出所) リクルートワークス研究所

株式会社リアセックキャリア総合研究所 (同所長 角方 正幸 氏) 資料より

魅力的な地域って・・・

多様な世代
が住んでいる

学校がある

お互いに
「そこそこ」
顔が見える

お互いを
尊重し合える

お互いに
助け合える

皆が生き生
きしている、
楽しい

学校への願い・・・

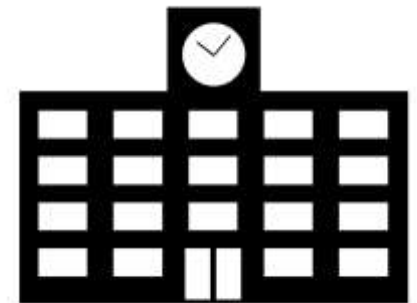
子供が安心して、安全に通える

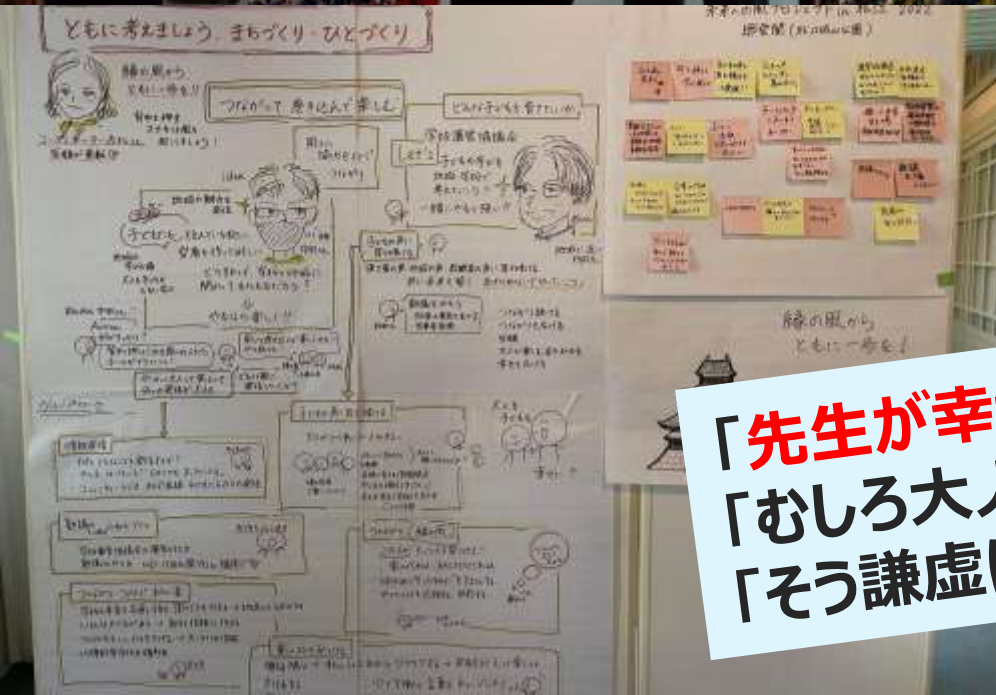
多様な人と多様な経験ができる

楽しく学べる

そのためには・・・

教職員と地域住民・保護者、保護者同士、地域住民同士、地域住民と保護者等の関係が良い、大人が幸せであり楽しんでいる、そして、同じ方向を向いているといい。





「先生が幸せでないと、子供は幸せになれない」
「むしろ大人が子供から学ぶことの方が多い」
「そう謙虚に考えると、子供に高圧的にならない」

No.2599



教育ルネサンス コミュニティ・スクール 1



校則について学校運営協議会の委員と議論を行う生徒会役員(右)(6月、春日市立春日西中学校提供)

保護者や地域住民らが学校運営に加わる「コミュニティ・スクール」(CS)。文部科学省はより多くの年度までに、全公立校で導入する。とを目標としている。学校と保護者、地域が一体となった各地の取り組みや課題を紹介する。

地域や保護者 学校運営参加

CSとは、地域住民や保護者らが委員を務める「学校運営協議会」を置く学校を指す。校長の学校運営の方針を承認したり、必要な支援を協議したりする。

福岡県春日市立春日西中学校では今年度、生徒会役員7人が協議会に2回出席し、地域住民らと不合理な校則を見直すための検討を始めた。

同校では十数年前まで、深夜徘徊や万引きなどの補導が年1000件を超えていた。当時、非行対策として作

「子供も町も変わった」

補導

られた▽まゆ毛に手を加えることは認めない▽ひざ立状態でスカートの裾が完全地面につく…などの規定も今も残り、定期的に教員がチェックしている。

各地で「ブラック校則」が児童しが広がる中、赴任2年目の矢野校長が「生徒が大人の意見も踏まえて見直す」と、規則の意義を深く理解できる」と議論の開始を決めた。参加した3年の立川山桜桃さん(15)は「規律ある学校生活を送り、将来社会に出るために、一定のルールは必要と感じた」と語る。

春日西がCSとなったのは、学校が荒れていた2006年度のことで、

「生徒の問題行動が多く、

減

出さない」保護者、生徒の状況

た夜間パ四時に、夏祭り参加さ

100CS担

が年間100件を超える年もある。

父親の活動が活発なものも特徴だ。春日小の「おやじの会」(約50人)は毎年、児童に自転車(約50人)は毎年、児童に自転車の安全な乗り方の教室などを開いている。会長は柳田潔さん(46)は「CSは子供の生きる力や社会性を育てだけでなく、大人が活躍する場にもなっている」と語った。

学校が変わると、子どもが変わる
そして、地域が変わる

制度導入27%

CSはいじめや不登校、学級崩壊が問題となつて、2000年、国

の「教育改革国民会議」が閉鎖的な学校に風穴を開けようとする。04年に制度化され、17年にCSの導入が努力義務化された。現在、文部科学省の有識者会議が普及を図る方策などを検討している。

CSの導入率は昨年7月現在、27.7%にとどまる。

負担増など 懸念の声も

1ルになり得る。だが、学校現場には負担増への懸念や校外の人が教育活動に入ることへの抵抗感が根強い」と指摘する。

CSとなったも、数年で活動が停滞するケースもある。福岡県春日市教委の宮本敬一さんは「一部住民に様々な負担が集中しないよう、幅広い住民の参画を得ることがカギになる」と長く続ける秘訣を語った。

コミュニティ・スクールは、学校と地域をとりまく課題解決のための仕組み（プラットフォーム）

学校や子供たち、地域が抱える様々な課題

→ 学校だけに任せるのではなく、**地域全体で解決を図る**必要性がある

→ 学校と地域が目標や課題を共有し、協議する**仕組み** = **コミュニティ・スクール**

学校の課題

ICT機器の活用

生徒の情報端末の操作のサポートやプログラミング教育等に課題



子供の課題

子供の問題行動等

不登校や非行など、学校外での問題行動等への対応に課題



地域の課題

若者の地元定着

子供たちが地域と関わる機会、ふるさとを知り学ぶ機会の減少などの課題



地域防災

災害時に避難所となる学校と地域の連携体制・物資等の整備に課題



地域産業・文化振興

後継者不足等により活力を失った地域産業・コミュニティ活性化に課題



コミュニティ・スクール（学校運営協議会）により、地域全体で解決に向けて取り組む

(例) 埼玉県ふじみ野市

企業退職者や研究者が、学校応援団として、プログラミング教育へのアドバイスや支援等に協力

(例) 福岡県春日市

課題を学校と地域が共有・協議し、保護者・地域・学校・警察が協力して夜間パトロールなどを実施

(例) 鳥取県南部町

地域の協力のもと地域の自然や歴史・文化を学ぶカリキュラムを設定し、子供たちのふるさとへの愛着や社会参画力を育成

(例) 熊本県

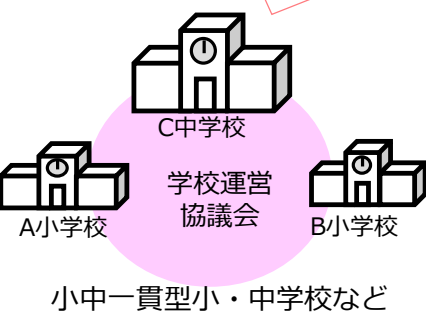
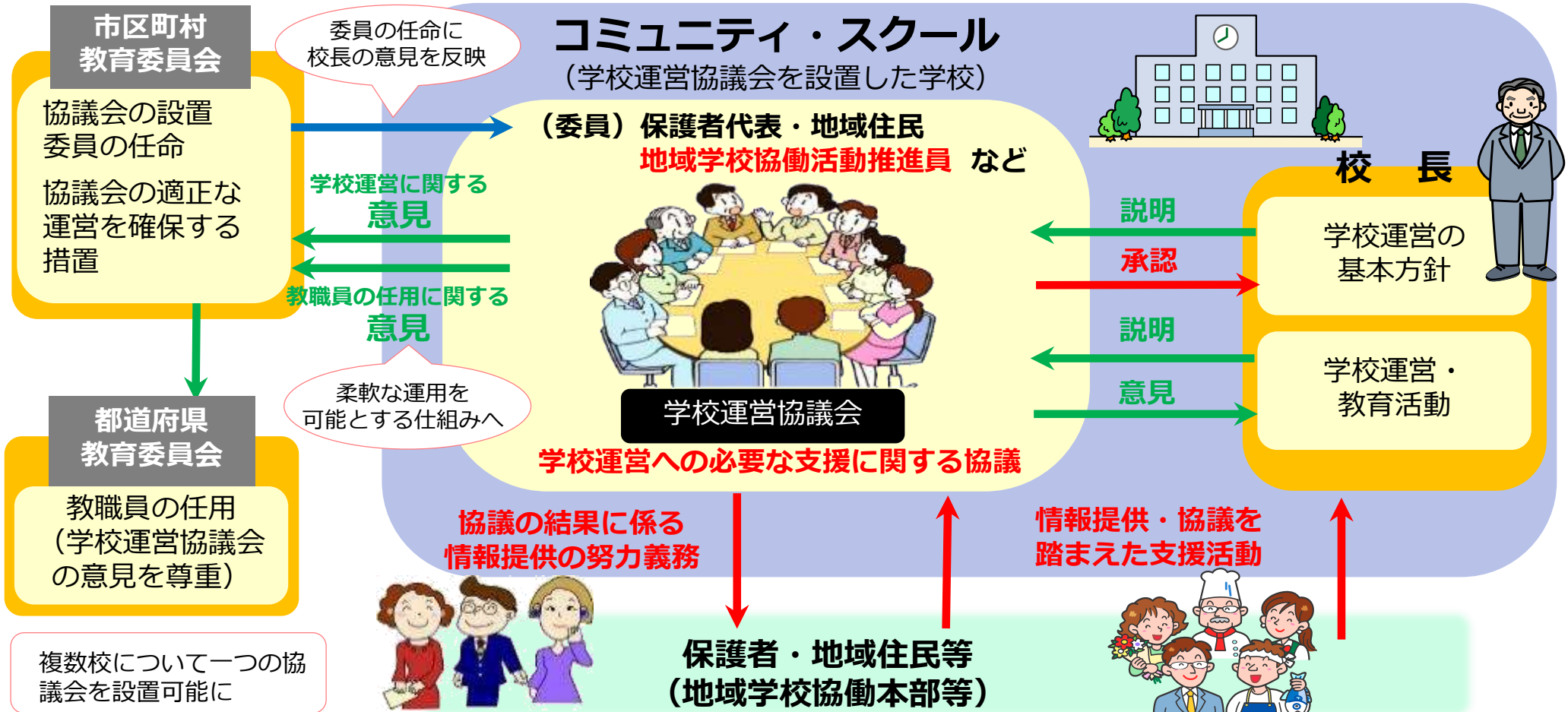
自治体の防災担当職員等が学校運営協議会に参画し、生徒と地域住民の合同防災訓練など、防災に関する事項・取組を協議・実践

(例) 山口県

専門高校と地元産業との連携や高校生による小学校への出前授業を通じ、伝統文化・産業の振興や子供たちへの継承を促進

コミュニティ・スクール 地域学校協働活動

コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)の仕組み



<学校運営協議会の主な役割>

地教行法第四十七条の五

教育委員会が、学校や地域の実情に応じて学校運営協議会を設置

- 校長が作成する学校運営の基本方針を承認すること
- 学校運営について、教育委員会又は校長に意見を述べるができること
- 教職員の任用に関して、教育委員会規則で定める事項について、教育委員会に意見を述べるができること

コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)の仕組み

コミュニティ・スクールとは、「学校運営協議会」を設置している学校のこと。

⇒「学校運営協議会制度」は、次の法律に基づく制度で、主に3つの機能を持つ。

【地方教育行政の組織及び運営に関する法律 第47条の5】

教育委員会が、学校や地域の実情に応じて学校運営協議会を設置
= 学校の運営に関して協議する機関

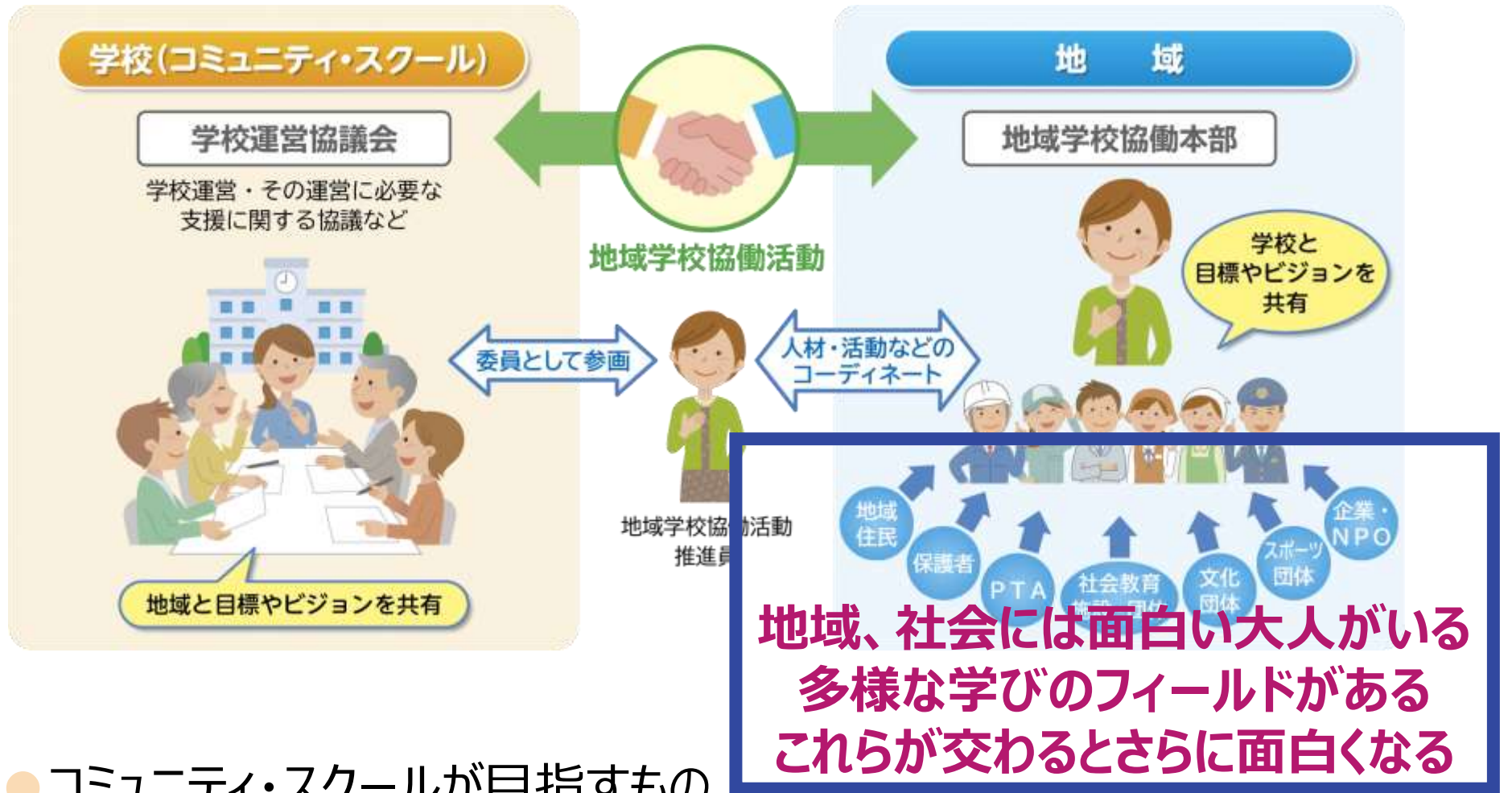
- 校長が作成する学校運営の基本方針の承認をすること（必須）
- 学校運営について、教育委員会又は校長に意見を述べることができること
- 教職員の任用に関して、教育委員会規則に定める事項について、教育委員会に意見を述べることができること

合議体

~~個人の意見を尊重~~

教育委員会
の下部組織

委員は特別職の非常勤公務員



● コミュニティ・スクールが目指すもの



地域

とともにある

学校づくり

➡ 学校運営の方向性を皆で決める、民主的なガバナンス機能

● 地域学校協働活動（本部）が目指すもの



学校

を核とした

地域づくり

➡ 同じ方向性を目指して主体的に行動し、学びと繋がりを意識した活動

目指す目標をみなで創る
目標をジブンゴト化する

「学校運営の基本方針とは？方針の承認とは？」

「学校運営の基本方針」を承認するとは・・・

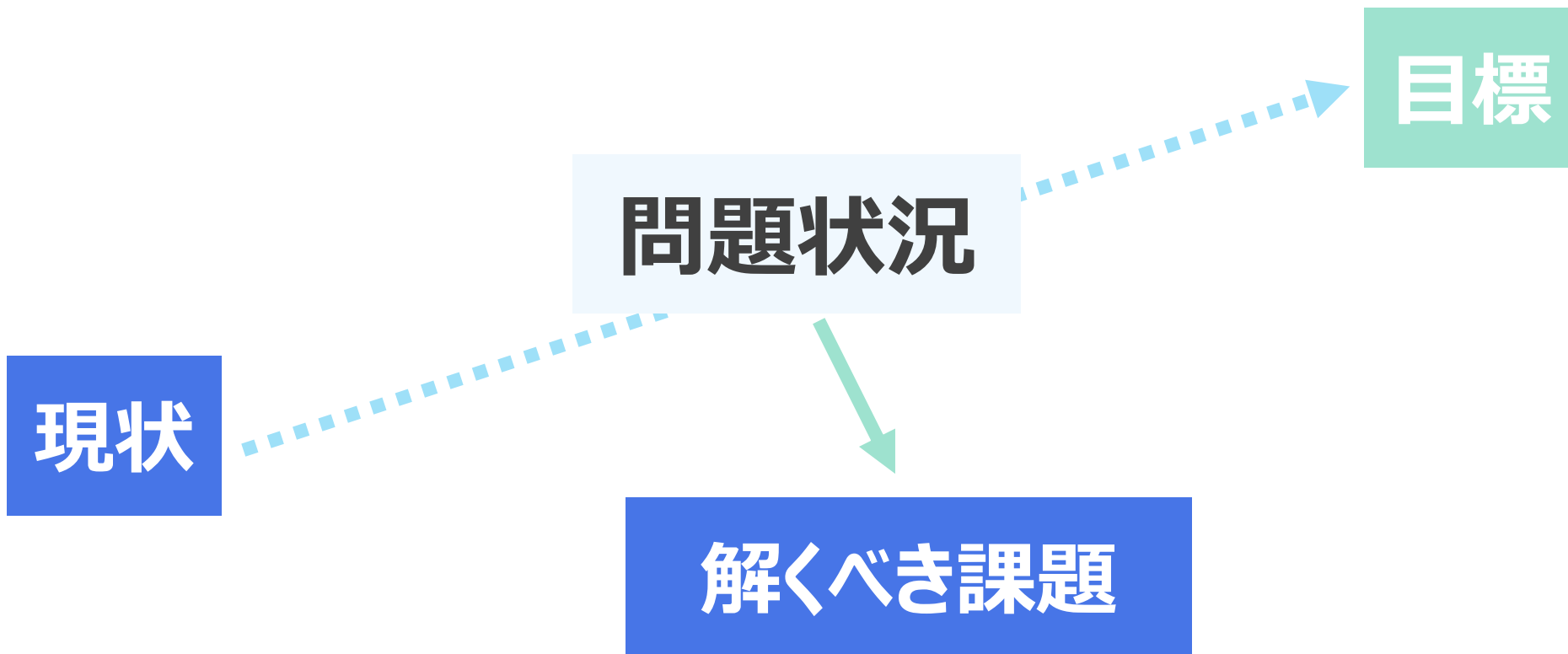
校長が作成する学校運営の基本方針をもとに、これからの未来を担う子供たちに必要な教育は学校だけで行うものではないという前提に立ち、課題や目標、それぞれの役割に関する共有・協議・修正を繰り返しながら、**話し合いによる承認**を行うこと（**共育目標の創造**）。

また、その目標に向けて必要なヒト・モノ・カネに関する方向性を決めること（**マネジメント**）。

「OK」ではなく「Let's」

課題 ▶ 当事者間で「解決すべきだ」と前向きに合意形成された問題のこと

問題と課題は、目標と現状の差分



「学校運営の基本方針とは？方針の承認とは？」

- 不登校、いじめ、学力など、学校が把握している「問題」「課題」の**共有**
- これからの社会において必要な資質能力の**共有**
- 家庭、地域が日頃感じている「問題」「課題」の**共有**
- 家庭、地域が思う、子供にどういう風に育て欲しいかという「ニーズ」、そして、「想い」の**共有**

信頼・信任

当事者意識

課題やニーズ、必要な資質能力等を明らかにしながら「目指す子供像」を**共創**

目指す子供像の実現に向けて、**学校が行うこと（教育課程）**を方針として**明確にし**、ここに、家庭が行うこと、地域が行うこと、さらには、**協働して行うこと（教育課程内外問わず）**を確認し合い、これらの活動を支える重要な要素、**ヒト（組織、人事等）・モノ（施設等）・カネ（学校予算、学校徴収金等）**の方針も決めていく。必要があれば正式に意見具申する。

地域学校協働活動

〔 **協働**：立場の異なる人たちが、同じ目的のために対等な立場を目指して協力して共に働くこと 〕

「当事者」による学校評価アンケート

【目標】（生徒が）気持ちの良い挨拶ができるようになる

教職員	授業や休み時間に、 生徒たち に気持ちの良い挨拶を行っている
生徒	学校内外で、誰に対しても、分け隔てなく気持ちの良い挨拶を行っている
保護者	家庭内において、朝・夕、 お子さん に気持ちの良い挨拶ができています
地域住民	地域で、顔見知りの 生徒たちと出会ったとき 、気軽に挨拶を交わしている

「学校を評価する」のではなく、
「自分たちの主体的な動き」に目を向ける

教育目標「たくましい体」「かしこい頭」「やさしい心」「食べる力」のバランスがとれた健康力旺盛な子どもの育成

重点目標 コミュニティ・スクールの教育(共育)活動を通じた健康づくりと社会力の育成

4育成部長を中核とした4育成委員会との連携

的確な支援と成長の把握・認識、教育(共育)活動の連続

実効性のある教育活動と効率化



家庭の役割

【してみせる】→【させる】→【ほめる】

自分でできる場づくりをつないで振り返る

- たくましい体**
基本的運動生活習慣づくり
・早寝
・早起き
・家族で運動
・情報機器を使うルール
- かしこい頭**
家庭学習の習慣づくり
- やさしい心**
家庭から進める4A運動
・元気にふるあいつ
・自分であんぜん
・ありがとうの気持ちで
・自分であこしまつ
- 食べる力**
朝食から始める食育
・バランスがとれた朝食
・家族がそろって団らん
・家族とともに料理
・お弁当づくり

天神山小PTA

学校的作用

【教える】→【鍛える】→【ほめる】

表現・学び合い活動とふり返りを位置付けた健康づくり教育の展開

理解 (課題把握) トライタイム → 納得 (表現・学び合い) チャレンジタイム・パワフルタイム → 実践 (行動化) キラリタイム

学校重点課題1 健康づくり
表現・学び合いとふり返りがある学習過程と単元構成を授業や日常指導に位置づけてめざす子どもを育てます。
＜教科等の学習で＞

- たくましい体: 体育科の2単元の学習過程で、表現・学び合い活動とふり返りがある学習過程をつなぎます。
- かしこい頭: スピーチ、チャレンジ年報を中心に、学び方と基礎学力の定着をめざします。
- やさしい心: 学校指定活動と課外活動を中心に、運動の体験づくり、きちんした生活習慣をめざします。
- 食べる力: 朝食とあそびかき指導を中心に、健全な食生活とマナーの定着をめざします。

学校重点課題2 社会力の育成
自分のめあてをもち、ひととかがわり合いながら課題を解決・達成していく子どもを育てます。

三者協働 実行組織 (たくましい体、かしこい頭、やさしい心、食べる力) 育成委員会

地域の役割

【役割をもたせる】→【仲間とさせる】→【ほめる】

地域で役割を果たす場づくりをつないで振り返る

- たくましい体**
健康な町づくりパトロール
・安心・安全な登下校
・安心・安全な遊び場
・情報機器を使うルール
- かしこい頭**
地域の学び場としての公民館
- やさしい心**
世代を超えた仲間づくり
・地域行事で活躍する登校班
・地域で広げる4A運動
・あいつ・あんぜん
・ありがとう・あこしまつ
- 食べる力**
地域で伝える食育
・世代をこえて楽しむ
・地域の団らん
・地域での食育
・もちつき

自治会 天小わんぱくポラネット

体力づくり 休まず・止まらず・少しずつ
地域とともに育つ心身ともに健康な天神山っ子
つなく つながる つながっている 4A運動

春日南中学校ブロック コミュニティ・スクール共育目標
地域とつながり、地域に感謝する児童・生徒の育成
～学校と地域の Win and Win の関係づくりを通して～

Activeプロジェクト Kindプロジェクト
Buildプロジェクト 役割分担方式

学校運営協議会の年間計画例

回数、日時	地域連携カリキュラム	協議、報告内容	教員出席
10/12 第5回 ※学校関係者 評価	協議会の思いや意見を引き出し、それを汲み取った予算編成・要求	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校関係者評価【学校】(不登校・いじめ等報告) ○ 後期学校改善提案【学校】 ● 次年度予算編成【学校事務職員】 ○ PTA・公民館共催「ゆめまつり」【PTA・地域】 	1名
11/9 第6回	<ul style="list-style-type: none"> ○ 2年生活 さぎちょう祭り ○ 4年総合 二分の一成人式 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域連携カリキュラム【学校】 ○ 家庭学習・生活習慣アンケート結果【PTA】 	4名
12/10(土) 第7回 ※忘年会	<ul style="list-style-type: none"> ○ 持久走大会 →給食試食 	<ul style="list-style-type: none"> ● 次年度学校経営目標【学校】 ○ 家庭学習・生活習慣アンケート結果【PTA】 ○ 地域での行事・活動、児童の参画【地域】 	—
2/8 第8回 ※学校関係者 評価	<ul style="list-style-type: none"> ○ 2年生活 4月畝づくり、苗植え 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校関係者評価【学校】(不登校・いじめ等報告) ○ 全国体力・運動能力、運動習慣調査結果【学校】 ○ 地域連携カリキュラム【学校】 ● 次年度年間計画【学校】 	3名
3/8 第9回	校長異動の場合、4月に再度提案	<ul style="list-style-type: none"> ● 児童会活動説明【児童会】 ○ 家庭学習・生活習慣アンケート総括【PTA】 ● 次年度学校経営構想の承認【学校】 ● 次年度学校運営協議会、行事等予定確認 	2名

教職員参加のために、夜開催から夕方開催へ

まずは・・・

学校運営協議会をどのような会にしていくのか・したいのか

協議内容

委員人選

会議の
約束事

開催時間

場所
席配置

学校だけで決めるのではなく、当事者である人たちが集まって、議論してもよいのでは！？

このプロセスが意外と大事！！あとで効いてくる！！

学校運営協議会「目標共有化推進」事例

～日の出小学校「導入一年目の模索期」～

(ステップ1) 地域ニーズに応える学校の方向性の明確化

① 第一次アンケート調査 (課題把握) 対象～校区全世帯 保護者 教職員

■調査項目 子供たち～ ●よいところ ●望むこと ●その他気づいたこと

■審議 (課題の明確化)

○学校→心の教育、学力向上 ○家庭→しつけ ○地域→地域住民同士の連携

② 第二次アンケート調査 (目指す方向性確立) 対象～保護者

■調査項目 ●学力●健康・体育●基本的な生活習慣●モラル●ふりあいづくり●安全

*各項目の細目～「現状と重要度」から四段階回答、「取り組み提案」

■審議 (方向性確立) ●日の出小学校「家庭・地域・学校が目指す子供像」

○学力の向上 ○健康・体力の向上 ○生活力の向上
○モラルの向上 ○かかわる力の向上 ○安全対応力の向上

■説明会 (集計結果) ～保護者、地域住民～

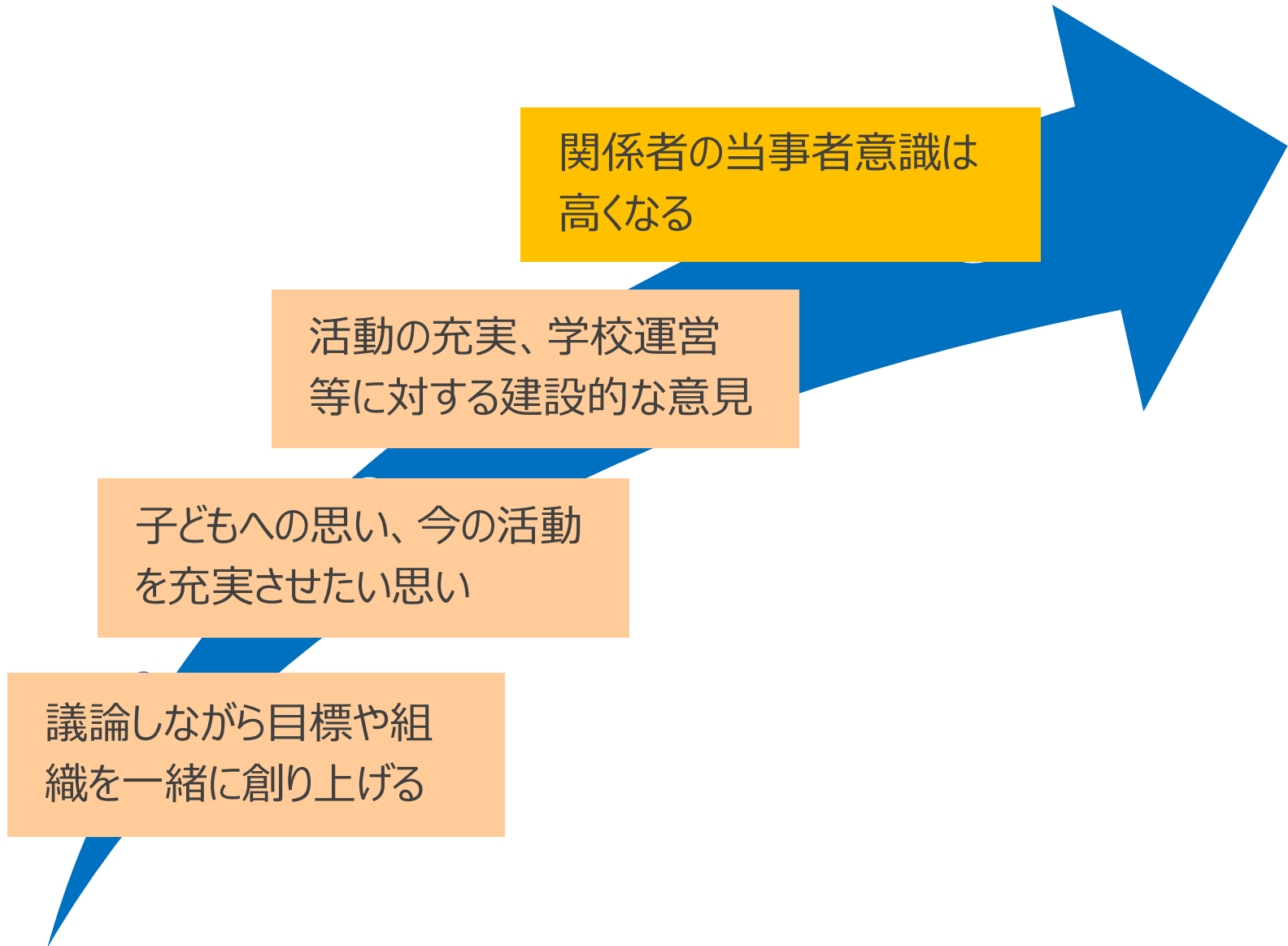
(ステップ2) 目標を目指した取組みの創造

① 地域運営学校のあり方の模索 (学校組織再編、ボランティア拡大、共催行事等)

② 組織運営の機能化「協議内容の実践化→実働組織 (課題別コミュニティ) 誕生」

※この間に、2学期制導入も議論 (学校運営そのもの！)

目標共有と当事者意識の関係(プラス)



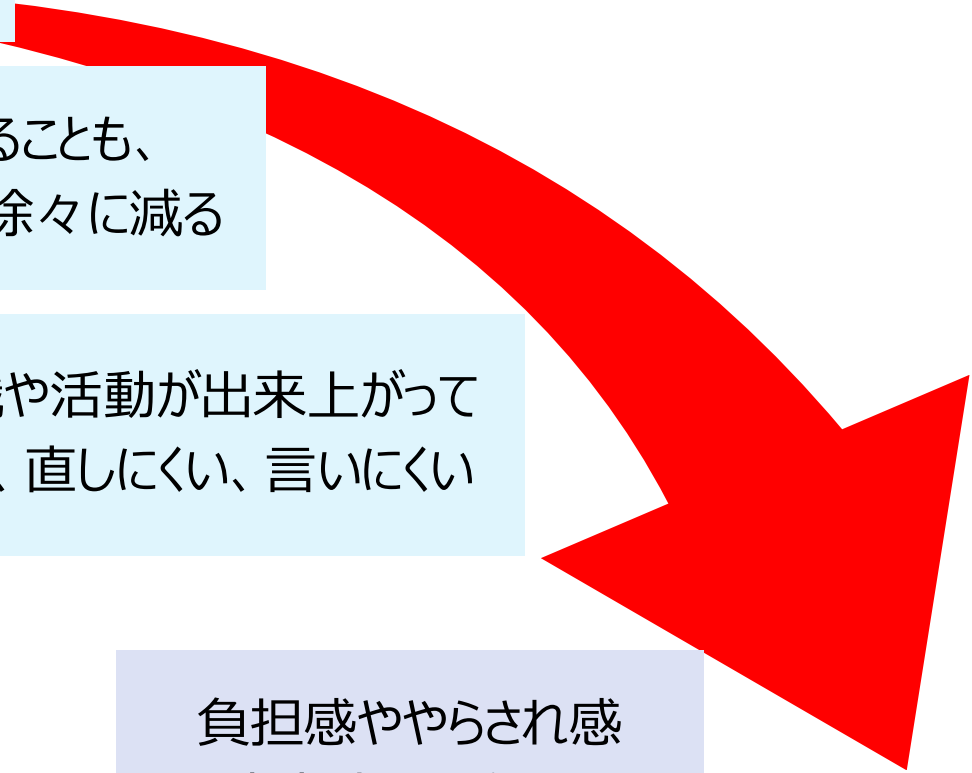
目標共有と当事者意識の関係(マイナス)

すでに目標も活動も組織も
あるので、報告や承認のみ

自分で創り上げることも、
考えを言うことも徐々に減る

組織や活動が出来上がって
いて、直しにくい、言いにくい

負担感ややらされ感
当事者意識も低くなる



コミュニティ・スクールの
可能性を広げる

例えば春日市は・・・

福岡市のベッドタウンで人口は多い（人口密度が高い、人の異動が多い）が、特徴的な地域資源（自然環境、農業、産業、観光等）がない。多様な資源を学校にどう呼び込むか。

資源が限定的で、物理的に限界がある

- 他地域との連携（互いにならない環境、考え方を共有）、春日市に賛同してくれる企業や大学等との連携、オンライン活用ができないか
- 地域住民一人ひとりの「情報」や「縁」を生かす

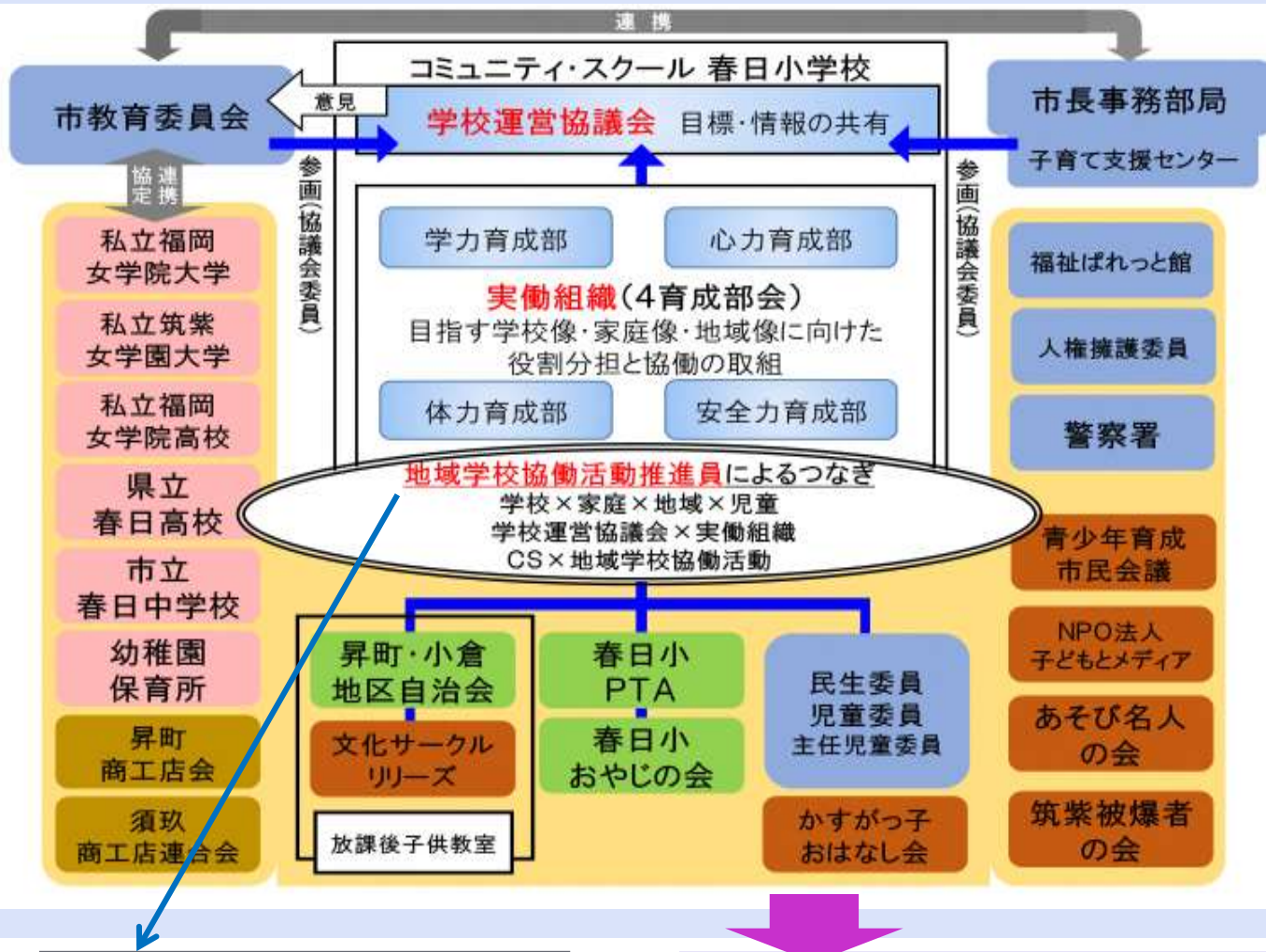
住民同士の関係が希薄になりがち

- 学校、子供を真ん中に置いて、地域住民同士の「縁」をつくる
- コミュニティ・スクールを使いこなす、コーディネーターが地域住民同士を「繋げる」

春日市における教育施策の経過

年度	コミュニティ・スクール	その他教育施策
H13	子どもトライアングル21策定 学校評議員制度	<div style="background-color: red; color: white; padding: 5px; text-align: center;"> 学校への権限移譲 学校とのパートナーシップ </div> <div style="border: 2px solid red; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 予算執行権委譲 <input type="checkbox"/> 予算原案編成権委譲 <input type="checkbox"/> 学校管理運営規則改正 →学校裁量拡大 <input type="checkbox"/> 市単独学校訪問の廃止 <input type="checkbox"/> 教育長「学校出前トーク」 <input type="checkbox"/> 学校事務の共同実施 <input type="checkbox"/> 校区再編（今も継続中。10年以上かかる大変手間のかかるもの。覚悟と本気が必要。） </div>
H14	<開かれた学校づくり> 全国の動き、教育委員会の危機意識と実行プラン	
H16	地教行法「学校運営協議会」の設置が可能に	
H17	<地域とともにある学校づくり> 役割分担、参加から参画へ	
H17	春日北中学校ブロック3校 で九州で初めて導入 3校	
H18	4校	

コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進



社会的包摂の視点

<様々な困難さの想定>

- 学習支援(中～大学生、地域も参画)
- 福祉との連携(市子育て支援センター・主任児童委員)
- 夏休み料理教室
- おやじの会による自転車教室・キャリア教育
- 商店会・中学生・地域等連携の挨拶運動
- 居場所づくりと世代間交流(放課後子供教室・公民館コミュニティ食堂)

<多様性の尊重>

- シニアクラブや隣接する障がい者施設と児童の継続的交流
- 大学生による特別支援教育の補助

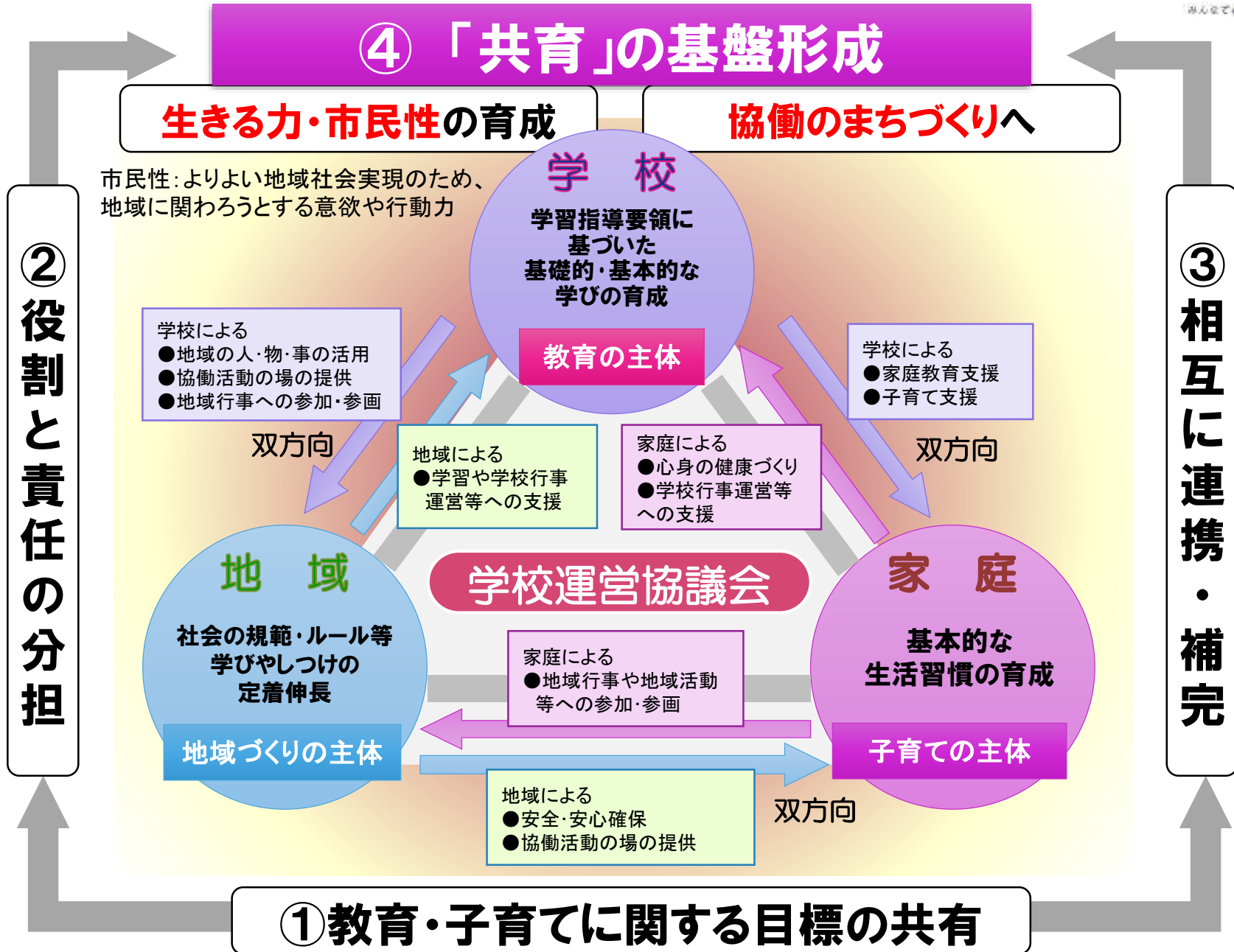
総合化・ネットワーク化

- 目指す地域像・家庭像と取組を位置付けた学校経営構想
- 事業の有機的連携(自治会行事の2地区合同化、コミュニティ食堂と体験活動の同時開催等)
- 関係者をつなぐ、推進員による手厚い情報発信(学校ホームページ更新、コミュニティ・カレンダー、校内掲示物、放課後子供教室PR動画等)

- ① 学校と家庭・地域の連絡調整の負担軽減
- ② 双方の関係の円滑化
- ③ 過去の活動の引継ぎ

- 地域学校協働推進員等のキーパーソンや数多くの担い手が連携・協働して、地域ぐるみで子どもたちを手厚く見守り、「生きる力」を育てている。
- 協働活動の洗練によって、学校・家庭・地域それぞれの「教育力向上」と「負担軽減」が両立、活動の持続可能性が高まっている。

春日市のコミュニティ・スクール 概念図



春日市の学校運営協議会委員構成

地域住民（自治会役員、協働活動に積極的な住民 等）

保護者（PTA役員、地区委員 等）

学識経験者（大学教員、CS導入期校長 等）

主任児童委員（地域コーディネーター兼務者も）

地域コーディネーター

教職員（校長、教頭、地域連携担当教員、学校事務職員、**スクールソーシャル
ワーカー**等）

行政職員（例 **家庭に課題の多い学校→子育て支援課職員を配置**等）

学校長による推薦

20名以内

教育委員会が任命
（報酬支払い）

あまり例がないかもしれません

等

4. 導入のプロセス・留意事項

導入時の課題は、**目的の明確化、関係者の十分な理解、核となる人材の確保**など。
効果的な体制をつくるには、これらの課題を踏まえて導入を進めることが重要

効果的な実施、負担感の軽減、持続可能な体制づくりのためには

- 目的を明確化することが重要（コミュニティ・スクールの導入が目的ではない）
- **目的を共有し、達成するために必要な人材**の人選・確保が必要

（自治体における導入プロセスの例）

目的の設定・周知理解促進

- 先進事例の収集
 - 準備会等の立ち上げ
 - 啓発資料等の作成
 - 学校への情報提供
 - **家庭・地域への情報提供**
 - 総合教育会議等を活用した首長部局等との連携
 - 自治体施策への位置づけ
 - 教育委員会規則の策定
- など

人材確保・養成

- 学校管理職研修
 - 教職員研修
 - 地域関係者等への研修
 - **アドバイザー（学校運営協議会の設置及び円滑な実施に向けて、助言・支援を行う者）**の配置
 - **コーディネーター（地域学校協働活動推進員等）**の配置
 - 学校運営協議会**委員の人選**
- など

実践・改善

- 学校運営協議会の開催
 - 継続的な教職員研修
 - 継続的な地域関係者等への研修
 - 地域学校協働本部との連携
- など

4. 導入のプロセス・留意事項

人材は、地域の中にならず埋もれている

課題の明確化、課題に応じた適切な人選がポイント

地域や抱える課題に応じて必要な人材はそれぞれ

→ 課題の明確化が重要。課題に応じて、**必要な人材を意識して選出**することが必要

(事例) (鳥取県南部町)

GIGAスクールに向けて学校へのICT機器の導入 → ICTの活用に対する学校の不安
→ 学校が苦手とする新たな機器等の活用を、民間の知見をもつ方の協力・支援によりサポート

(事例)

都市型のベッドタウンでは、平日昼間は地域の中に子供と高齢者のみしかいない。
→ 地域の中で、中学生が地域防災の担い手として活躍する仕組みとして検討

地域人材を掘り起こす

→ **企業等の退職者の持っている知見を活かせる場・地域に関わるきっかけ**としても有効

(事例) (鳥取県南部町)

委員の人選にあたっては、あて職は最低限にし、PTA経験者や民間企業退職者など、学校の課題に対応して、民間の視点を取り入れることが重要

(事例) (埼玉県ふじみ野市)

都市部であっても、子供たちに関わりたい、教育に関心をもつ人は多いが、地域とのつながりが少ない。
→ これまで地域と接点のなかった企業等の退職者が、地域に関わる最初のきっかけとしても有効。生きがいつくりにもつながる



**地域行事運営への生徒の参画(大人との企画協議)
生徒の主体的・対話的で深い学びのために！
(学校運営協議会で目指す方向性の共有があってこそ)**

春日東コミュニティ推進委員会 (生徒代表、自治会、保護者、教員)

生徒を交えた学校運営協議会での熟議

令和元年11月5日

春日西中学校 学校運営協議会

生徒会役員が参加し、「不登校生徒等の減少のため、自分たちができること」を協議

